PREMATEX

TECHNICAL TRAINING vol.01

技術研修資料 vol.01

プレマテックス製品と基礎知識編

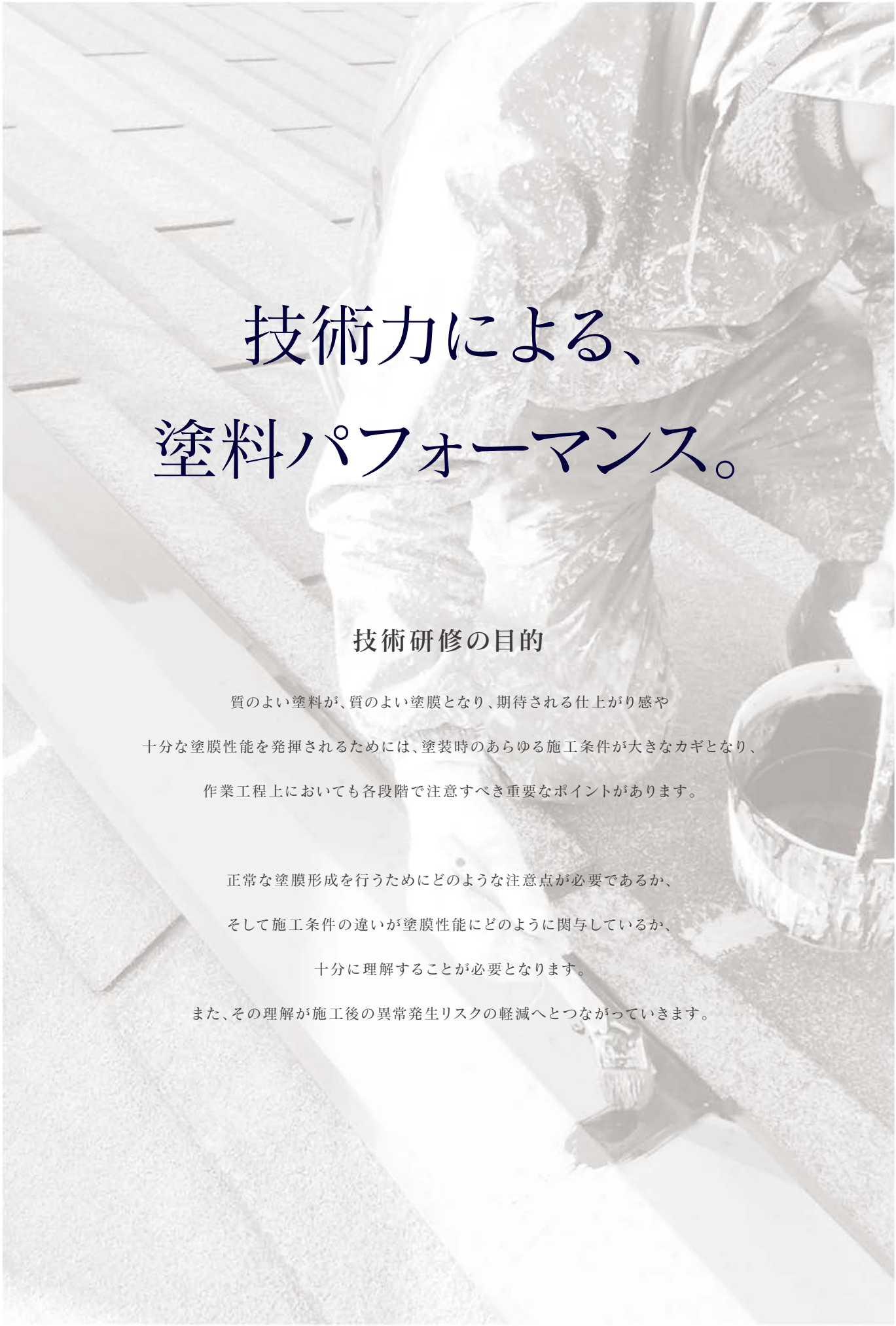
Topic 01 製品の仕様と特徴

Topic 02 施工条件と施工環境による注意事項

Topic 03 シーリング改修工事標準施工仕様書



2026.10.22



技術力による、
塗料パフォーマンス。

技術研修の目的

質のよい塗料が、質のよい塗膜となり、期待される仕上がり感や
十分な塗膜性能を発揮されるためには、塗装時のあらゆる施工条件が大きなカギとなり、
作業工程上においても各段階で注意すべき重要なポイントがあります。

正常な塗膜形成を行うためにどのような注意点が必要であるか、
そして施工条件の違いが塗膜性能にどのように関与しているか、
十分に理解することが必要となります。
また、その理解が施工後の異常発生リスクの軽減へとつながっていきます。

CONTENTS

01 製品の仕様と特徴

01. 仕様書の見方 04
02. PXシンナー 04
03. セラベース 05
04. 製品ラインナップ 06-07
05. 適用基材と補足 08
06. 下地調整方法 09
07. カラー・艶バリエーション 10-12
08. 製品保証について 13-14

02 施工条件と施工環境による注意事項

01. 施工時の気温と湿度 15
02. 保管場所について 15
03. 油性塗料の取り扱い 16
04. 洗浄後の乾燥について 16
05. 塗料製品の使用期限 16
06. 塗膜の状況確認 16
07. 通気工法の確認 17
08. サイディングボードの状態 17
09. シーリング材の後打ち 17
10. 色調の選択 18-19
11. 塗料製品の撹拌 19
12. 2液反応硬化型塗料の調合と攪拌 19
13. 間隔時間の十分な確保 19
14. 意匠性(化粧)サイディングの下塗り材について 20
15. 難付着サイディングへの施工 20
16. スレート屋根の縁切り 20
17. セラベースについて 21
18. 艶調整品の塗り重ねについて 21
19. 塗り継ぎのムラ 21
20. クリヤー製品・保護コーティングの艶ムラ 21
21. ウルトラクリヤー・ウルトラTOPの施工後の白残り 22
22. 熱膨れについて 22

03 シーリング改修工事標準施工仕様書

01. 梱包仕様 23
02. 撤去打ち替え時施工方法 23-25
03. 増し打ちによる施工方法 26
04. 注意事項 26
05. 積算参考資料 27
06. シーリング材への塗装の注意点 27



01 製品の仕様と特徴

01. 仕様書の見方

工程	材料		調合	所要量/㎡/回 (塗布面積/セット/回)	施工器具	塗回数	間隔時間 (23°C)	可使時間 (23°C)
中塗り	セラベース [油性タイプ]	主　剤	13.0kg	0.12〜0.16kg (93〜125㎡)	刷毛 ウールローラー		3時間以上	5時間以内
		硬化剤	2.0kg					
	PXシンナー		0〜3%					
上塗り	① タテイル2	主　剤	14.0kg	③ 0.12〜0.16kg (100〜133㎡) ④	⑤ 刷毛 ウールローラー	⑥ 1	⑦ (4時間以上 7日以内)	⑧ 4時間以内
		硬化剤	2.0kg					
	② PXシンナー		5〜10%					

セラベースの詳細は次ページをご覧ください

①荷姿と調合比率
荷　　姿：製品の容量。複数サイズの取り扱いがある製品は一番大きなサイズの数値を掲載しています。
調合比率：2液形塗料はこの数値から主剤と硬化剤の調合比率(重量比)を計算します。例の場合は「主剤:硬化剤=7:1」となります。

②希釈剤の種類と希釈率
種　　類：水性塗料は清水(水道水)、油性塗料はPXシンナーで希釈してください。
希 釈 率：製品の最低希釈〜最大希釈の幅。施工環境や下地の状況、施工器具によって調整してください。

③所要量
1㎡あたりの施工に必要となる1回塗りあたりの塗料の量。

④塗布面積
1缶(1セット)で1回塗りできる面積。複数サイズの取り扱いがある製品は一番大きなサイズの数値を掲載しています。

⑤施工器具
塗料に適した施工器具(塗装方法)。

⑥塗回数
各工程ごとの塗り重ねる回数。

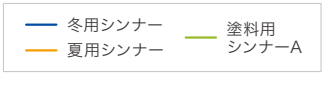
⑦間隔時間
塗り重ねの際、次の工程までに空ける最低〜最大時間。(気温23℃)

⑧可使時間
主剤と硬化剤を調合後使用可能な時間。(気温23℃)

02. PXシンナー

プレマテックスの油性製品を希釈する際は、必ずPXシンナーをご使用ください。PXシンナー以外の塗料用シンナーで希釈した場合、塗料が溶けずにゲル状に固まったり、硬化後の仕上がり不良(艶引け、油膜の生成)を起こす恐れがあります。





汎用塗料用シンナーのタイプ別性能
オールマイティなシンナーは組み合わせが難しく夏冬で使い分けが必要であるが、慣例的に通年塗料用シンナーAが使われることが多い。



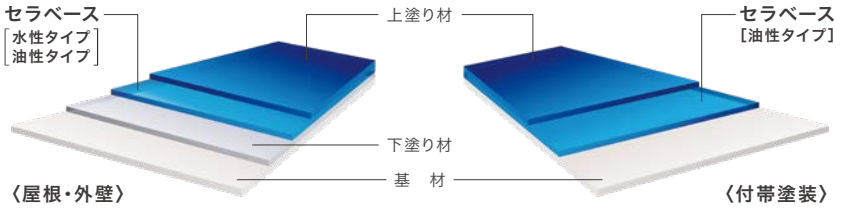
PXシンナーの性能
ほぼオールマイティな組み合わせを実現。使い分けせず最適な溶解力を発揮。

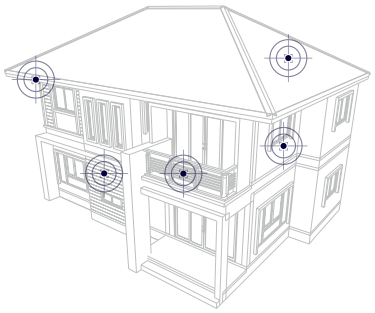


03. セラベース

下塗り材を塗布後、中塗り材にセラベースを使うことでより隠ぺい性を確保し、上塗り材を1回で仕上げることができます。
また、油性タイプは木部・鉄部・塩ビ部などの付帯部に下塗りなしで直接塗装することもできます。

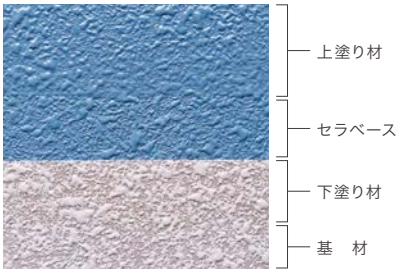
■塗布イメージ





■調色可能

日本塗料工業会の塗料用標準色をはじめ、多彩な色に調色可能です。豊富なカラーバリエーションで上塗り材と同色に仕上げられるため、屋根や外壁など住宅塗装のさまざまなシーンで広くご活用いただけます。



■対応上塗り材　※遮熱塗料・クリヤー塗料には使用できません

グランデシリコン／グランデ無機／ウルトラフッ素／ウルトラMUKI／ウルトラ有機HRC／ウルトラルーフ／パルフェTOP無機／パルフェTOP有機HRC／タテイルα プレミアムエディション／タテイルフロン／ケイセラII／タテイル2／タテイル／タテイルアクア／グラステージ エクストラカラー／グラステージ フレックスカラー

■用途に合わせた2タイプ



水性タイプ

水性1液反応硬化形
高耐候万能中塗りコート



油性タイプ

油性2液弱溶剤反応硬化形
高耐候万能中塗りコート

04. 製品ラインナップ

■グランデシリーズ

製品名	種　別	期待耐用年数
グランデシリコン	水溶性2液溶剤形 ハイグレードシリコン塗料	25～28年
グランデ無機	水溶性2液溶剤形 ハイグレード無機塗料	30～33年
グランデ有機HRC	水溶性2液溶剤形 ハイグレード有機HRC塗料	35～38年

■ウルトラペイントシリーズ

製品名	種　別	期待耐用年数
ウルトラSi	ウルトラナノポリマーシリコン 樹脂塗料	17～20年
ウルトラフッ素	ウルトララジカルコントロール フッ素樹脂塗料	18～21年
ウルトラMUKI	無機有機ウルトラハイブリッド 塗料	22～25年
ウルトラ有機HRC	ウルトラ耐候形有機HRC塗料	25～28年
ウルトラGゼロコート	ウルトラシリカ複合艶消し 無機塗料	20～23年
ウルトラクリヤー	ウルトラクリヤーシリコーン 樹脂塗料	20～23年
ウルトラルーフ	ウルトラハイソリッド無機塗料	20～23年
ウルトラTOP	ウルトラUVプロテクト 上塗り材保護用コート	+15年以上

■パルフェTOPシリーズ

製品名	種　別	期待耐用年数
パルフェTOPシリコン	水性1液反応硬化形 シリコン塗料	15～18年
パルフェTOP無機	水性1液反応硬化形 無機塗料	20～23年
パルフェTOP有機HRC	水性1液反応硬化形 有機HRC塗料	22～25年

■スタンダードライン（上塗り材）

製品名	種　別	期待耐用年数
タテイルα プレミアムエディション	油性2液弱溶剤超低汚染形 無機塗料	17～20年
タテイルαサンクール プレミアムエディション	油性2液弱溶剤超低汚染形 無機塗料遮熱タイプ	15～18年
タテイルフロン	水性2液フッ素ハイブリッド形 無機塗料	22～25年
ケイセラII	油性2液弱溶剤形 無機変性樹脂塗料	15～18年
セラガードSiトップ	油性2液弱溶剤形ハイグレード シリコーン樹脂塗料	12～15年
プリザーブコートW	水性2液反応硬化形 無機クリヤー塗料	22～25年
プリザーブコートS	油性2液弱溶剤形 無機クリヤー塗料	25～28年
プリザーブコートWSS	水溶性2液溶剤形 無機クリヤー塗料	30～33年

■トラファーベ

製品名	種　別	期待耐用年数
下塗り材	水性2液超付着万能形 下塗り材	35～38年
遮熱コート	水性1液形高日射反射率 無機塗料	
保護コート	水性1液形遮熱塗料用 UV保護コート	

■タテイル2　「パートナーショップ特約施工店」「T2オフィシャルショップ」専用塗料

製品名	種　別	期待耐用年数
タテイル2	油性2液弱溶剤形 有機HRC塗料	32～35年

■プレミアムライン　「パートナーショップ特約施工店」専用塗料

製品名	種　別	期待耐用年数
タテイル	油性2液弱溶剤超耐候形 無機塗料	27～30年
タテイルアクア	水性2液反応硬化形無機塗料	25～28年

■グラステージ　「認定アンバサダーショップ」専用塗料

製品名	種　別	期待耐用年数
エクストラカラー	油性2液弱溶剤多重ラジカル 制御形無機塗料	20～23年
フレックスカラー	油性2液弱溶剤多重ラジカル 制御形弾性無機塗料	20～23年
ECOルーフ	油性2液弱溶剤多重ラジカル 制御形高日射反射率無機塗料	17～20年
クリスタルコート	油性2液弱溶剤形UVカット 無機クリヤー塗料	20～23年

■コーナンオリジナル塗料　コーナン取引業者様専用塗料

製品名	種　別	期待耐用年数
シルヴェール	コーナンオリジナルUVケア シリコン樹脂塗料	12～15年
サンヴェール	コーナンオリジナルUVケア 無機変性樹脂塗料	15～18年

■上塗り保護コート

製品名	種　別	期待耐用年数
インテグラルコート	油性2液弱溶剤形上塗材 保護コート	+15年以上
ウルトラTOP	ウルトラUVプロテクト 上塗り材保護用コート	+15年以上

■インナーコーティング（中塗り材）

製品名	種　別
セラベース ［水性タイプ］	水性1液反応硬化形 高耐候万能中塗りコート
セラベース ［油性タイプ］	油性2液弱溶剤反応硬化形 高耐候万能中塗りコート

■アンダーコーティングシリーズ（下塗り材）

製品名	種　別
無機有機ハイブリッド EPO［水性タイプ］	水性2液反応硬化形超付着シーラー
無機有機ハイブリッド EPO［油性タイプ］	油性2液弱溶剤形エポキシ超付着シーラー
フィルメイク	水性1液形微弾性フィラー
クオリティマルチサーフ	水性1液形特殊シリコン樹脂サーフェーサー 屋根・外壁用
防錆プライマーpro	水性1液反応硬化形防錆プライマー
メタルガードエポ2	油性2液弱溶剤形エポキシ樹脂 サビ止めプライマー
マルチ浸透シール	水性1液浸透形カチオンシーラー
クリヤベースハイパー ［水性タイプ］	水性2液形意匠サイディング用 高付着プライマー
クリヤベースハイパー ［油性タイプ］	油性2液弱溶剤形意匠サイディング用 高付着プライマー
クラロックシーラー	油性1液強溶剤形クラック抑制シーラー

■プレマエディション製品

製品名	期待耐用年数
SRシール® H100 プレマエディション	30年
SRシール® S70 プレマエディション	10～15年
SRシール® NB50 プレマエディション	10～15年
オートンイクシード プレマエディション	30年
断熱コートEX プレマエディション	10年
ネオフレッシュティアラVS プレマエディション ［シリコンタイプ］（吹付用）	12～15年
ネオフレッシュティアラVM プレマエディション ［有機無機複合タイプ］（吹付用）	20～25年
ネオフレッシュティアラローラーVS プレマエディション ［シリコンタイプ］	12～15年
ネオフレッシュティアラローラーVM プレマエディション ［有機無機複合タイプ］	20～25年
ピュアコート® プレマエディション	20年以上

05. 適用基材と補足

塗装対象基材	適用下塗り材	補足とアドバイス
金属系		
鉄部	・無機有機ハイブリッドEPO ・防錆プライマーpro ・メタルガードエポ2	・仕上げに遮熱塗料を塗布する場合は無機有機ハイブリッドEPO（ホワイト）を塗布してください。
カラートタン		
亜鉛メッキ鋼板	・無機有機ハイブリッドEPO ・防錆プライマーpro ・メタルガードエポ2	・剥離事故を起こさないために、塗装前に必ず目荒しを行ってください。
アルミニウム		
ステンレス（SUS304）		
ガルバリウム鋼板	・無機有機ハイブリッドEPO	・銅板に密着はしますが、いずれ緑青（緑色のサビ）が発生し剥離の原因になるのでお勧めできません。
銅板		
無機系		
カラーベスト・コロニアル	・無機有機ハイブリッドEPO ・クオリティマルチサーフ	・劣化が著しい場合は塗り回数を増やしてください。
波形スレート		
セメント瓦		
乾式洋瓦（モニエル瓦など）	・無機有機ハイブリッドEPO	・乾式洋瓦はトルネードノズルなどを併用しながら入念に高圧洗浄し、着色スラリー層が除去できていることを確認した上で無機有機ハイブリッドEPOを2回塗りしてください。
アスファルトシングル	・クオリティマルチサーフ （水性上塗り限定）	・下塗り回数によって上塗りの吸込みが変わり、艶に差異がでる場合があります。 ・塗料の凝集により、シングル材が反る可能性がありますので、基材の浮きは事前にボンドなどで接着してください。 ・塗り付ける毎に間隔時間24時間以上を厳守してください。
打ち放しコンクリート	・無機有機ハイブリッドEPO ・マルチ浸透シール	・剥離事故を起こさないために、塗装前に必ず目荒しを行ってください。 ・劣化が著しい場合は塗り回数を増やしてください。
各種旧塗膜 （吹付タイル・リシンなど）	・無機有機ハイブリッドEPO ・フィルメイク ・クオリティマルチサーフ ・マルチ浸透シール	・旧塗膜のない新築などの場合はお問合せください。
窯業系サイディング	・無機有機ハイブリッドEPO ・クオリティマルチサーフ ・マルチ浸透シール	・劣化が著しい場合は塗り回数を増やしてください。
難付着サイディング	・無機有機ハイブリッドEPO ・クリヤベースハイパー	・クリヤー塗装の場合はクリヤベースハイパーを塗布してください。
有機系		
硬質塩ビ	・無機有機ハイブリッドEPO	・剥離事故を起こさないために、塗装前に必ず目荒しを行ってください。 ・劣化が著しい場合は塗り回数を増やしてください。
FRP樹脂		
特殊旧塗膜		
光触媒塗料	・無機有機ハイブリッドEPO	・クリヤー塗装の場合はお問い合わせください。
無機系塗料		

○基材に骨材が荒い吹き付け（例：スタッコ吹、ジョリパッド仕上げなど）がある場合は、特に洗浄後の乾燥に気を付けてください。
水分が残っていると乾燥後、膨れなどの原因になります。

06.下地調整方法

■金属系（屋根・外壁）

① 電動工具・手動工具を用いて劣化した旧塗膜を除去し、発錆部は2種ケレン（SSPC_SP3、ISO St3）程度まで除錆してください。旧塗膜は全面目粗し後、清掃ケレンを行ってください。

② コケ・ゴミなど付着物・汚れ・劣化塗膜がある場合は、密着力低下の原因となりますので、入念に除去し、油分は溶剤にて拭き取ってください。

③ 亜鉛メッキ鋼板（亜鉛鉄板・電気亜鉛メッキ鋼板）に塗装する場合、6ヵ月以上放置し表面光沢を消失されるか、或はリン酸処理などを施してから塗装してください。

④ 塗装面周辺は、汚れや損傷を与えないように養生紙や養生テープなどで完全養生してください。

⑤ 雨上がり後は、素地面が均一に乾いてから施工してください。

■窯業系（屋根）

① 素地に付着しているゴミ・ホコリ・カビ・藻などは、高圧洗浄などで丁寧に取り除いてください。洗浄は高圧洗浄ができない場合、水を流しながらデッキブラシ・ワイヤーブラシ・タワシなどを用いて取り除いてください。洗浄後は充分に乾燥してください。スレート波板の溝の部分・重ね箇所・フックボルト周辺などは入念に清掃してください。旧塗膜が劣化して、浮き・割れ・膨れなどがある場合はきちんと除去してください。

② 寒冷地区における屋根材は、塗膜の膨れ・剥がれなどの劣化が著しく下地が脆くなっています。下地処理が不十分な場合、塗膜剥離の原因となったり光沢が出ないなどの仕上がり不良になりますので入念に行う必要があります。

③ 塗装面周辺は汚れや損傷を与えないように養生紙や養生テープなどで完全養生してください。

④ 雨上がり後は素地面が均一に乾いてから施工してください。

■窯業系・モルタル・コンクリート（外壁）

① 素地に付着しているゴミ・ホコリ・油脂類・異物は高圧洗浄などで取り除いてください。

② 劣化した既存塗膜は、電動工具・手工具を用いてケレン除去してください。

③ ゴミ・油などの付着物は除去し、水分10%、pH10以下に管理してください。

④ 下地の表面に微細ひび割れが生じている場合は、本仕様による施工は避け他の工法を選択してください。

⑤ 雨上がり後は均一に乾いてから施工してください。

⑥ 吹付面周辺は汚れや損害を与えないように養生紙や養生テープなどで完全養生してください。

07. カラー・艶バリエーション

製品名	カラーバリエーション				艶バリエーション			
	標準色	屋根用 耐候性強化色	屋根用遮熱色	日塗工色	艶あり	半艶(5分艶)	3分艶	艶消し
グランデシリコン	○	○	○	○	○	×	×	×
グランデ無機	○	○	○	○	○	×	×	×
グランデ有機HRC	○	○	○	○	○	×	×	×
ウルトラSi	○	○	○	○	○	×	○	×
ウルトラフッ素	○	○	○	○	○	×	○	×
ウルトラMUKI	○	○	○	○	○	×	○	×
ウルトラ有機HRC	○	○	○	○	○	×	×	×
ウルトラGゼロコート	○ ※末尾7・8番非対応	×	×	×	×	×	×	○
ウルトラクリヤー	透明				○	×	○	×
ウルトラルーフ	×	○	○	×	○	×	×	×
ウルトラTOP	透明				○	×	○	×
パルフェTOPシリコン	○	○	○	○	○	×	○	×
パルフェTOP無機	○	○	○	○	○	×	○	×
パルフェTOP有機HRC	○	○	○	○	○	×	×	×
タテイルα プレミアムエディション	○	○	×	○	○	○	○	×
タテイルαサンクール プレミアムエディション	×	×	○	×	○	×	×	×
タテイルフロン	○	×	×	○	○	×	○	×
ケイセラII	○	○	○	○	○	○	○	×
セラガードSiトップ	○	×	×	○	○	○	○	×
プリザーブコートW	透明				○	×	○	×
プリザーブコートS	透明				○	×	○	×
プリザーブコートWSS	透明				○	×	×	×
トラファーベ(遮熱コート)	トラファーベ標準色 (外壁・屋根色24色／屋根専用色6色)				○	×	×	×
トラファーベ(保護コート)	透明				○	×	○	×

製品名	カラーバリエーション				艶バリエーション			
	標準色	屋根用 耐候性強化色	屋根用遮熱色	日塗工色	艶あり	半艶(5分艶)	3分艶	艶消し
タテイル2	○	○	○	○	○	×	×	×
タテイル	○	×	×	○	○	×	×	×
タテイルアクア	○	×	×	○	○	×	○	×
グラステージ エクストラカラー	○	○	×	○	○	○	○	×
グラステージ フレックスカラー	○	×	×	○	○	○	○	×
グラステージ ECOルーフ	×	×	○	×	○	×	×	×
グラステージ クリスタルコート	透明				○	×	○	×
シルヴェール	○	×	×	○	○	×	○	×
サンヴェール	○	○	○	○	○	×	○	×
インテグラルコート	透明				○	×	○	×
セラベース[水性タイプ]	○	○	×	○	○	×	○	×
セラベース[油性タイプ]	○	○	×	○	○	×	○	×
断熱コートEX プレマエディション	○	×	×	○	×	×	×	○
ネオフレッシュティアラ VS･VM プレマエディション	ネオフレッシュティアラ標準色／特別色				○	×	×	×
ネオフレッシュティアラローラー VS･VM プレマエディション	ネオフレッシュティアラローラー標準色／特別色				○	×	×	×
ピュアインナーUVクリヤー	透明				×	×	○	×
ピュアインナーカラー	○ ※淡彩色～中彩色	×	×	○	×	×	○	×
ピュアコート® プレマエディション	透明				艶が半減することを目安にご使用ください			

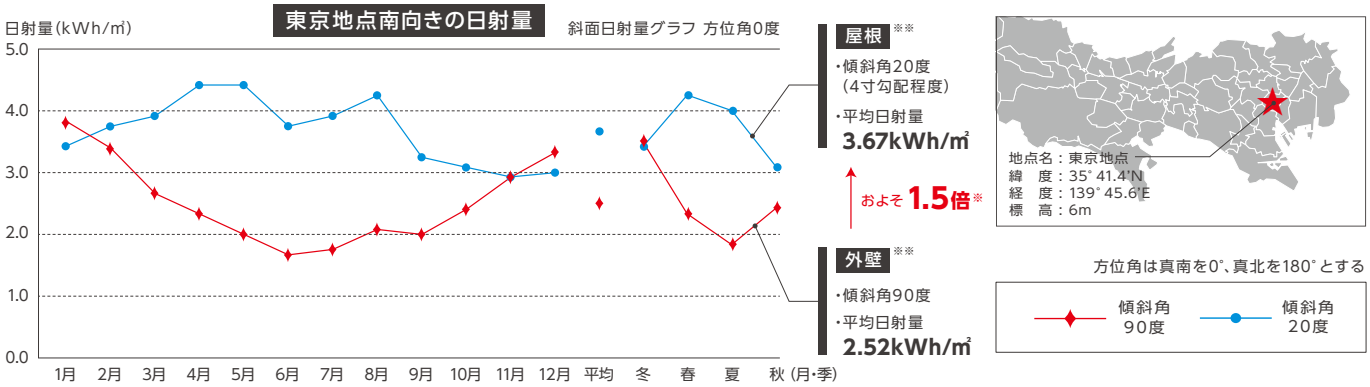
○屋根用耐候性強化色、屋根用遮熱色は、艶ありのみの対応となります。
○屋根用耐候性強化色、屋根用遮熱色は、グランデシリーズを除き一斗缶のみの対応となります(グランデシリーズは小缶対応しております)。
○タテイル2、ウルトラ有機HRC、グランデ有機HRC、パルフェTOP有機HRCは有機顔料制限により色見本帳との色差が生じる色があります。
○艶調整は荷姿問わず一律1,000円アップとなります。
○対応可能なカラーバリエーションでも、色調や濃度によって近似色や限界色、調色できない場合があります。

ROOF High Regulation COLORS「屋根用耐候性強化色」について

艶ありのみ　一斗缶のみ　遮熱塗料対象外

屋根・外壁の耐候性の差をなくす、「屋根用耐候性強化色」

屋根と外壁の日射量比は約1.5倍※の差があり、同じ塗料を使用しても屋根と外壁では塗膜の寿命に差が生じていました。「屋根用耐候性強化色」は塗膜劣化の要因を可能な限り払拭し耐候性を大幅に向上、同じ塗料でも屋根と外壁（標準色）の耐候性差の生じない施工を可能にしました。



※東京地点南向きの屋根と外壁の年間平均日射量比：新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）「日射量データベース閲覧システム」を基に当社作成。
※※当社が想定した表現です。

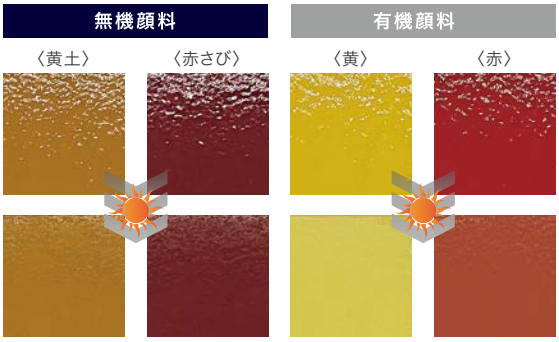
「屋根用耐候性強化色」の特長

01 耐候性に優れた無機顔料と比較的耐候性の良い有機顔料（青・緑）のみで調色。
02 光安定剤（HALS）を高配合し、退色の進行を抑制。
03 艶調整材などの添加を抑え、相対的な樹脂量を最大限に確保し樹脂劣化を抑制。

MAIN 無機顔料　白　黒　黄土　赤さび　非常に耐候性に優れている。鮮やかな色が出にくい

SUB 有機顔料　青　緑　比較的耐候性が高い　＋　**HALS** 光安定剤　退色の進行を抑制

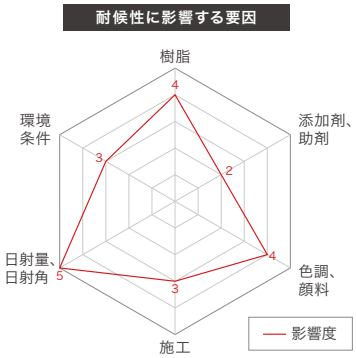
【無機顔料・有機顔料の退色変化】



無機顔料に対し有機顔料は耐候性が低く早期退色しやすい。

黄　赤　**「屋根用耐候性強化色」では、耐候性の悪い有機顔料（黄・赤）は一切使用しません。**

実耐用年数は複合的な要因で決まる



どうにかなる 可避要因
●樹脂　●添加剤
●色調、顔料　●施工

どうにもならない 不可避要因
●日射量、日射角
●環境条件

「屋根用耐候性強化色」を屋根に使用することで、屋根と外壁の耐候性差をなくし建物全体の色彩と美しさを長期にわたり維持し続けます。また、屋根と外壁の塗り替え周期も合うため長期的なコスト削減にもつながります。



【耐候性の比較】

外壁塗装	耐候性差	屋根塗装
標準色	＞	標準色
標準色	＝	屋根用耐候性強化色

〈耐用年数イメージ〉



08. 製品保証について

●製品保証は屋根・外壁に塗布した場合のみです。(その他の部位は対象外です。)
●【　】内の年数は「インテグラルコート」もしくは「ウルトラTOP」を使用した場合の保証期間です。
●ウルトラペイントシリーズの製品保証発行には、ウルトラローラーでの施工が必須となります。

製品名	保証対象部位	パートナーショップ特約施工店 製品保証年数	取扱施工店 製品保証年数
グランデシリコン	外壁／屋根	15年【25年】	8年【18年】
グランデ無機	外壁／屋根	18年【28年】	10年【20年】
グランデ有機HRC	外壁／屋根	20年【30年】	12年【22年】
ウルトラSi	外壁／屋根	8年【18年】	4年【14年】
ウルトラフッ素	外壁／屋根	10年【20年】	5年【15年】
ウルトラMUKI	外壁／屋根	12年【22年】	6年【16年】
ウルトラ有機HRC	外壁／屋根	15年【25年】	8年【18年】
ウルトラGゼロコート	外壁	12年【 － 】	6年【 － 】
ウルトラクリヤー	外壁	12年【 － 】	6年【 － 】
ウルトラルーフ	屋根	12年【22年】	6年【16年】
パルフェTOPシリコン	外壁／屋根	6年【16年】	3年【13年】
パルフェTOP無機	外壁／屋根	10年【20年】	5年【15年】
パルフェTOP有機HRC	外壁／屋根	12年【22年】	6年【16年】
タテイルα プレミアムエディション	外壁／屋根	12年【22年】	なし【10年】
タテイルαサンクール プレミアムエディション	屋根	12年【22年】	なし【10年】
タテイルフロン	外壁／屋根	12年【22年】	なし【10年】
ケイセラII	外壁／屋根	10年【20年】	なし【10年】
セラガードSiトップ	外壁／屋根	5年【15年】	なし【10年】
プリザーブコートW	外壁	15年【 － 】	8年【 － 】
プリザーブコートS	外壁	18年【 － 】	10年【 － 】
プリザーブコートWSS	外壁	20年【 － 】	12年【 － 】
トラファーベ ※トラファーベ全工程の出荷履歴必須	外壁／屋根	20年	15年

製品名	保証対象部位	パートナーショップ特約施工店 製品保証年数	T2オフィシャルショップ 製品保証年数
タテイル2	外壁／屋根	20年【30年】	10年【20年】

製品名	保証対象部位	パートナーショップ特約施工店 製品保証年数
タテイル	外壁／屋根	15年【25年】
タテイルアクア	外壁／屋根	12年【22年】

製品名	保証対象部位	認定アンバサダーショップ 製品保証年数
グラステージ エクストラカラー	外壁／屋根	15年【25年】
グラステージ フレックスカラー	外壁	15年【25年】
グラステージ ECOルーフ	屋根	15年【25年】
グラステージ クリスタルコート	外壁	15年【 － 】

製品名	保証対象部位	コーナン取引業者様 製品保証年数
サンヴェール	外壁	10年

第一条（保証事項）
プレマテックス製品で施工した塗膜の外観変化について以下の各号に起因する事項。
1. 塗装面を目視したときの著しい変退色。
2. 仕上げ塗膜が剥離した場合。
※著しくとは、塗装面が見苦しく社会通念上明らかに補修が必要となる場合をいいます。

第二条（保証範囲の検証）
1. 第一条に起因する事態が発生した場合は、施工業者が責任を持って保証範囲内か否かの検証を行います。検証結果によっては、製造メーカー立合いのもと再度調査を行います。
2. 1項の結果、保証対象と認めた場合に製造メーカーは現場分として出荷した数量を上限として補修に必要な範囲で製品を提供します。

第三条（保証期間）
保証期間は、別途定めてある期間内とする。また、保証期間内に第一条に起因する事態が発生し補修工事を行った場合でも、保証期間の終了日は、別途定めている期間とする。

第四条（補修方法）
第一条に起因する事態が発生し補修工事が必要な場合は、製造メーカーは製品を速やかに支給し、施工業者が責任を持って速やかに対応します。施工業者は最善の補修方法を検討し、必要な補修工事内容と工事計画をお客様に提出の上、承認を得てから補修工事を行います。

第五条（免責事項）
以下の各号に起因する事項は、保証対象外となります。
1. 天変地異による災害、または不可抗力により塗膜に損傷を生じた場合。
2. 下地基材の劣化、躯体、構造上の動きによる割れ、欠損、変形等の、製品と施工以外に起因する塗膜の不具合。
3. シーリング材から起因する汚染や、シーリング材上部からの割れ、剥離、変退色。
4. 塩害、公害、植物等の特殊な周辺環境、及び自然環境や住環境に起因する結露などによる塗膜の不具合。
5. 居住者や第三者の故意または過失による塗膜の不具合。
6. 経年劣化による施工部位全面の汚れ。
7. 飛来物や結露による微生物（カビ・コケ・藻）汚染や、もらい錆汚染及び構造上に起因する汚染。
8. 保証期間内に第一条に起因する事項が発生したが、速やかに申し出がなく拡大損害した場合。
9. 施工物件の所有者が変更になった場合。
10. 施工業者と弊社間の保証に関する契約が終了または解除となった場合。
11. 標準施工仕様が遵守されていない施工の場合。

■プレマエディション製品

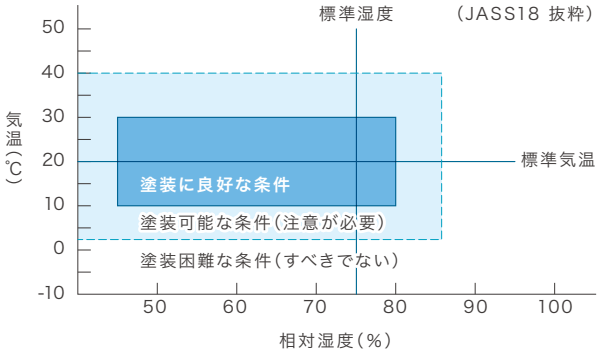
製品名	保証対象部位	製品保証年数
SRシール® H100 プレマエディション	サイディング板間縦目地	漏水：10年
オートンイクシード プレマエディション	サイディング板間縦目地	漏水：15年
断熱コートEX プレマエディション	外壁／屋根	5年【15年】
ネオフレッシュティアラVS プレマエディション（吹付・ローラー）	外壁	5年
ネオフレッシュティアラVM プレマエディション（吹付・ローラー）	外壁	10年
ピュアコート® プレマエディション（カラー工法）	外壁	5年
ピュアコート® プレマエディション（クリヤー工法）	外壁	5年



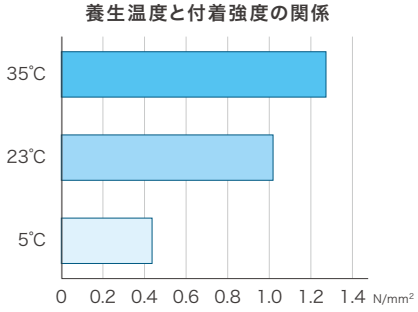
02 施工条件と施工環境による注意事項

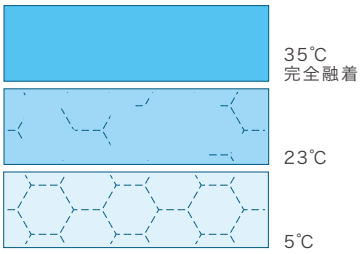
01. 施工時の気温と湿度

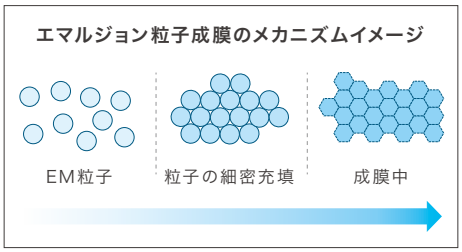
施工環境が気温5℃以下の場合、湿度85%RH以上の場合、結露が発生する可能性がある場合、外部の施工で降雨が予想される場合には施工を避けてください。
仕上がり不良や剥離などの不具合が発生して本来の塗膜性能を発揮できない恐れがあります。



■塗膜強度、付着強度への影響







■見た目の仕上がりへの影響(艶ムラ)



低温・高湿による施工ムラ



造膜途中の降雨による剥離



低温・高湿による顔料の噴出



低温による凍みムラ

02. 保管場所について

塗料の保管は冬期は室内、その他の季節は直射日光や雨に当たらない場所で保管してください。
また子供の手の届かない場所に保管し管理してください。

03. 油性塗料の取り扱い

油性塗料を取り扱いの際は火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法などを厳守してください。

04. 洗浄後の乾燥について

水洗い後は日数を空け十分に乾燥させてください。
また塗装面が雨や霧などで濡れている場合は十分に乾燥するまで塗装しないでください。

ケース	水分の残ったジョリパットへ施工したため、数日経過しても上塗り材の艶が引かない（完全乾燥が遅い）。



05. 塗料製品の使用期限

塗料の使用期限は未開封の状態で出荷から水性/水溶性溶剤製品は6ヶ月、油性製品は12ヶ月です。

一度開封した製品は、空気や水分に触れて反応してしまいますので、色や粘度に変化がない場合でも1ヶ月を過ぎたものは使用しないでください。

開封までに他の物質と反応させないよう、窒素置換して充填をしています▶





06. 塗膜の状況確認

旧塗膜の密着確認を必ず行ってください。密着の弱い旧塗膜の上に塗布すると剥離の原因になります。密着が弱い旧塗膜は全て除去してから下塗りを行ってください。
塗シン拭きで異常が出る下地に油性塗料で施工するとリフティングを起こす可能性があるため、水系仕様に変更してください。

異常部分の除去を行わずに塗り替えを行うと、剥離などの不具合が発生する場合があります。



ガムテープによる密着確認
※1面につき最低5～6箇所は密着確認を行ってください。



塗料用シンナーによるリフティング確認

07. 通気工法の確認

窯業系サイディングボードは「通気工法」で施工されているか確認してください。

通気工法が採用されていない場合、内部に滞留した水分が排出されず、凍害などの大きな要因となります。



水切りの上に手を入れ、サイディングボードと断熱材の間に隙間があれば「通気工法」です。

【凍害事例】





⚠ 通気工法でない場合は製品保証の対象外です。

※現地調査で判断できない場合はハウスメーカー様へご確認願います。

08. サイディングボードの状態

サイディングボードの状態がひどい場合は、交換する必要があります。

劣化が著しいサイディングボードをそのまま塗り替えると、剥離やヒビ割れが起きる可能性が高くなります。



■凍害による損傷の確認

凍害により塗膜が剥離していないか確認してください。

サイディングボード内部に漏水や内部結露などが発生した場合、0℃以下になると凍結膨張と融解を繰り返しサイディングボードが破壊されてしまいます。



⚠ 凍害が発生している窯業系サイディングボードは製品保証の対象外です。

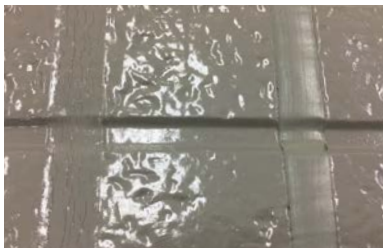
09. シーリング材の後打ち

シーリング部分の状態を確認してください。ひび割れなどの劣化が激しい場合は撤去して、新たにシーリング材を充填してください。
シーリング材を新たに充填する際は、使用する塗料の色に近いシーリング材を使い、シーリング材上への塗布は避けてください。必要上塗布する際はシーリング材との塗り重ね適合性を十分確認のうえ施工してください。

シーリング上の塗膜は割れや剥離の可能性が高いため、シーリング材は「後打ち」を推奨いたします。

シーリング材の塗膜が割れる要因

- シーリング材と塗膜の適合性
- シーリング材の3面接着
- シーリング材の乾燥養生不足
- サイディングボードの動き



先打ち　後打ち

■シーリング部の割れについて

シーリング材の収縮（痩せ）による塗膜の伸長や割れを防ぐため、打ちかえたシーリング材はメーカー規定の十分な養生期間を確保してください。

⚠ シーリング材の上に塗布した部分は製品保証の対象外です。



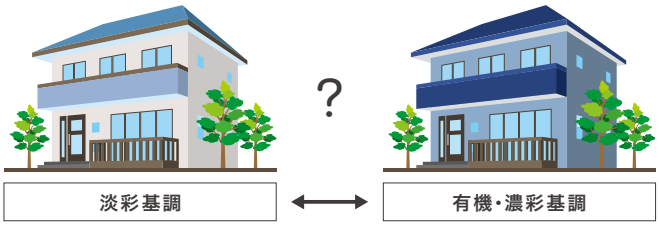
躯体の挙動、外力による割れ



シーリング材の痩せによる割れ

10. 色調の選択

塗料中に投入する顔料や添加剤の種類や量で、施工性や耐久性は変わります。
塗料としての性質を理解した上での色選びを促してください。



■顔料の種類

【無機顔料】
非常に耐候性に優れている。鮮やかな色が出にくい。

白　黒　黄土　茶

【有機顔料①】
比較的耐候性が良い。

青　緑

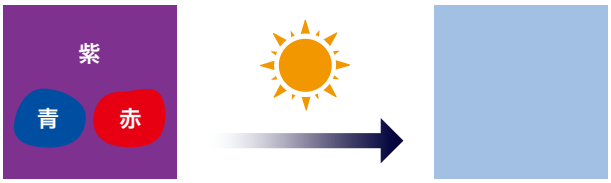
【有機顔料②】
耐候性が悪く、着色力が弱い。

黄　赤

■色調と褪色について

耐候性の弱い顔料から先に褪色します。

紫は赤と青を混ぜて作る色ですが、紫外線によって赤から色抜けしやすく、最終的に薄い青色に変化します。



■顔料の量イメージ



淡彩（艶あり）　濃彩、有機濃彩（または艶調整）

同じ15kg製品でも相対的な樹脂量が減る色調もあります。

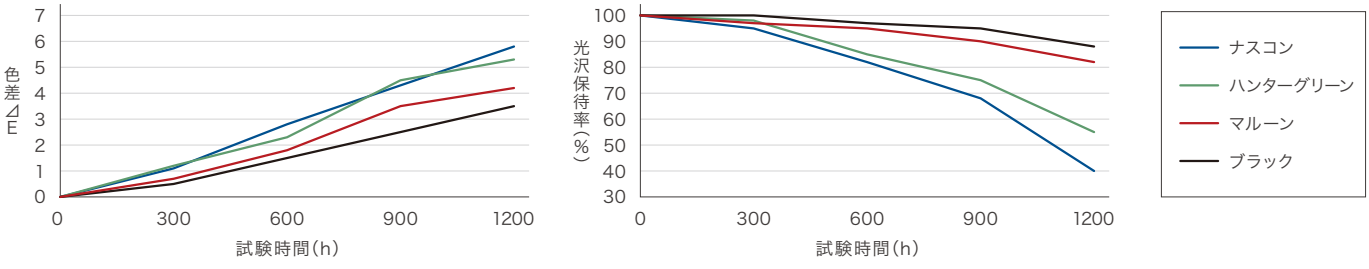
■青系・緑系塗料の保護コート併用の推奨

屋根は住宅の塗り替え箇所の中で最も耐候性が求められる部位です。屋根色は濃色のラインナップが多いため、顔料性能の影響力が高く、色の選定が耐候性を少なからず左右することになります。
赤系は赤さび、黄系は黄土である程度無機顔料への置き換えが可能ですが、青系顔料（フタロシアニン）は無機顔料への置き換えや調色制限が難しいため、青系や緑系は最も耐候性に不利な色となります。
※他メーカーはカラーバリエーション重視であり調色制限も緩やかであるため、色調の優劣はこの限りではありません。

調色制限効果の低い青系や緑系の塗料を屋根に使用する場合、塗膜の耐候性を高める保護コートの併用を推奨しています。



【ウルトラルーフの促進耐候性試験結果】



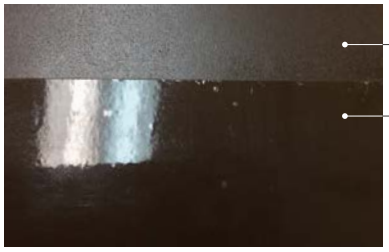
■色調や艶調整による成膜の遅れ

下記の複合的な要因により、上塗り材の成膜が遅れる場合があります。硬化の遅れが見られた場合、数週間の養生期間を見込んでください。

要因	●濃彩色（特に赤、青、緑） ●艶調整品 ●低温時の施工 ●施工後の降雨、夜露 ●1液、水性塗料

■艶調整による色の見え方の違い

艶調整品の場合、同じ色調でも彩度や明度が異なって見える場合があります。艶調整品を施工する場合は事前に見本板でご確認いただくか、テスト塗りなどの確認作業を実施してください。



11. 塗料製品の攪拌

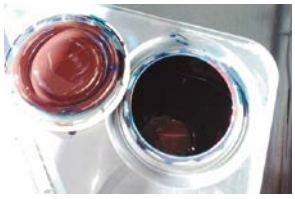
全ての塗料製品において、使用前の攪拌は大変重要です。保管中に沈降しやすい顔料や成分もあるため、一斗缶の天板を切り、電動攪拌機で缶の底から十分に攪拌してからカートリッジなどに小分けにしてご使用ください。

缶内での攪拌が不足した状態で缶の口金から塗料を出した場合、以下のような不具合が起こる恐れがあります。

・塗料粘度がゆるい
・指定した色調と異なる
・同じ缶から使ったのにタッチアップの色が変わる

【エコマルーン（屋根用遮熱色）】


攪拌前


攪拌後

12. 2液反応硬化型塗料の調合と攪拌

秤を使わずに調合したりコネ棒などで混錬した場合、後々の耐候性に大きな影響を及ぼします。

グラム単位で量れるもので正確に計量し、必ず電動攪拌機で混錬してください。シンナーなどによる希釈は、主剤と硬化剤の調合・混錬後に行ってください。

主剤と硬化剤の反応架橋が十分に得られなかった場合、塗膜の剥離や早期の退色、チョーキングなどの大きな要因となります。


硬化不良の塗膜は塗料用シンナー拭きで簡単に溶解します▶

13. 間隔時間の十分な確保

施工環境が整いづらい現場ほど、より長めの間隔時間を確保してください。

乾燥不良、艶引け、リフティングなどの大きな要因となるほか、下地を溶解したり下地を引っ張ったりする場合があります。


タテイルの間隔時間不足（追っかけ塗り）による縮み▶

14. 意匠性（化粧）サイディングの下塗り材について

フィルメイク（微弾性フィラー）は下地調整材であり、リシン壁やアクリルタイルの不陸をなだらかに調整するものです。もともと意匠性の高いサイディングの場合はクオリティマルチサーフ、無機有機ハイブリッドEPOやマルチ浸透シールをご使用ください

フィルメイクの希釈率や塗り厚、サイディングの種類によっては剥離や膨れの恐れがあります。



15. 難付着サイディングへの施工

難付着サイディングへの施工は、しっかりと下地を調査した上で適切な塗料を施工してください。

難付着サイディングとは

無機塗料や光触媒がコーティングされており、一般的な塗装が困難な外壁材。

（例）
・ケイミュー株式会社「光セラ」
・旭トステム外装株式会社「セルフッ素EXE30」
・ニチハ株式会社「プラチナコート30」

難付着下地専用の塗料を使用し、調合や間隔時間に十分注意して施工してください。



光セラに施工した塗膜

■エナメル（着色）塗装の場合の下塗り材



無機有機ハイブリッドEPO
［水性タイプ］



無機有機ハイブリッドEPO
［油性タイプ］

■クリヤー塗装の場合の下塗り材



クリヤベースハイパー
［水性タイプ］



クリヤベースハイパー
［油性タイプ］

16. スレート屋根の縁切り

スレート瓦の「縁切り」をするか、下塗りの後にタスペーサーを挿入してください。

窯業系屋根の重ね目が塗料でふさがれると、中に入り込んだ雨水が流れなくなり雨漏りの原因になります。



縁切りしなかった膨れ



タスペーサーを挿入

17. セラベースについて

セラベースは上塗り材と同じ色で調色することができますが、上塗り材が抜けてしまったことに気づかずに完工した場合、上塗り塗膜のない箇所が経年で先に退色します。

セラベースはもともと耐候性の高い塗料ですが、1回塗りの膜厚しか確保できていないことを要因として早い劣化を迎えます。



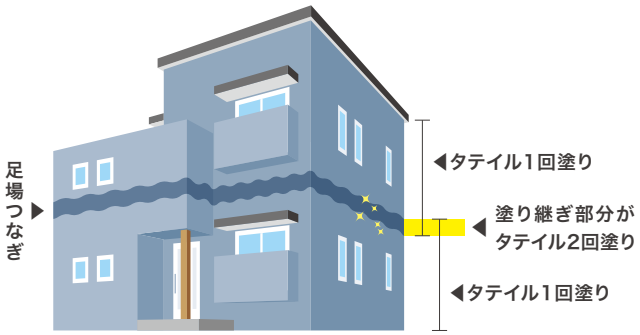
上塗り材を塗り残した箇所のみが先に退色▶

18. 艶調整品の塗り重ねについて

艶調整品（半艶、艶消しなど）を使用する場合は塗り重ねや塗布量によって艶が変化する場合があります。

ケース	セラベースを使用した上塗り仕上げで、足場つなぎ部分に艶ムラが発生した。

- タッチアップ補修をする場合は、筆などを使用して微細に処理してください。
- エナメル塗料でも「面で切る」よう心がけてください。
- 艶調整品や濃彩品はローラーの切りムラが出やすいため、粘度やローラーマークに十分注意して施工してください。
- 塗り継ぎや足場繋ぎに注意してください。
- 見本板も施工条件が異なるため艶の出かたは若干異なります。



19. 塗り継ぎのムラ

足場の踏み板付近などの塗り継ぎが生じやすい箇所は、膜厚を均一に保つことが難しいため塗装ムラが起こりやすい場合があります。
特に縦張りのサイディングなどはできるだけ「面」で塗装し、乾燥・硬化のタイミングをあわせてください。



「足場つなぎ」箇所の艶ムラ

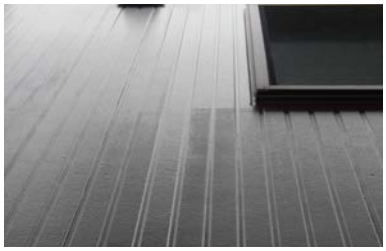


縦張りサイディングの塗装ムラ

20. クリヤー製品・保護コーティングの艶ムラ

サイディング用クリヤーや保護コーティングなどの艶調整品は塗り回数や塗着量の違いによって艶ののぼり方が変化しやすく、光の反射にも違いが起こるため艶のムラが目に見えやすくなります。
特に濃色、凹凸が少なくフラットな形状、幕板のない大壁形状の下地の場合はクリヤー製品の艶ムラが目立ちやすいので注意が必要です。

- 塗り継ぎに注意し、乾燥と硬化のタイミングをあわせて施工してください。
- ローラーはネットで適宜しぼり、均一に施工してください。
- 保護コーティングで艶調整する際は、下地となる上塗り材は艶有りをご使用ください。



21. ウルトラクリヤー・ウルトラTOPの施工後の白残り

ウルトラクリヤー・ウルトラTOPは水性エマルジョンのため、塗り付け後、乾燥硬化とともに均一な透明になります。

仕上げた後、塗着の多かった箇所がしばらく半透明のまま残る場合がありますが、深部まで乾燥することで徐々に透明になります。
補修や塗りなおしをする前に、数日乾燥期間を設けて経過を観察してください。厚付けした場合でも日数の経過とともに透明になります。
気泡を巻き込んだ塗料を塗り付けた場合、細かな気泡が白く残り手直しが困難となります。気泡の発生しやすいハイパイルローラー等は使用せず、ウルトラローラーをご使用ください。



滴下直後



24時間後



気泡による白残り

※乾燥硬化と透明化の変化を見るために滴下しています。施工時は均一に塗り広げます。

22. 熱膨れについて

施工後、夏の時期に膨れが発生することがあります。



サイディングボード



弾性スタッコ

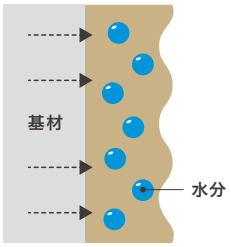


金属サイディング

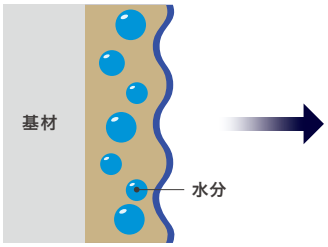
ケース		
	●施工後はキレイだったのに夏に発生した。	●既存の塗膜から膨れてしまっている。
	●主に東西南面に多い。	●軒下や室外機の裏など日射が当たらない場所は膨れていない。
	●カッターでつぶすと蜂の巣状になっている。	

■要因と発生機構

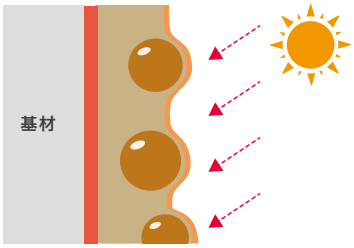
蓄熱水蒸気膨れは様々な複合的な要因で発生します。



外壁内部の水分の移動



新塗膜のマスク効果、透湿性の低下



太陽光熱による塗膜の軟化と膨張

要因			
	●高気密高断熱外壁	●弾性下地、弾性仕様	●夏場の強い日射
	●濃色への塗り替え	●脆弱下地	●直貼りサイディング、内部結露

■対処方法

① 膨れ部分の補修後、セメント系下地調整塗材などで縁切りしてから塗装する。
② 小さな膨れであれば研磨パッドなどで膨れを除去し、無機有機ハイブリッドEPO[油性タイプ]で縁切りした後、上塗りする。

部分補修した場合、翌夏に別の場所から膨れる可能性が大きいため、根本的な修繕補法は全面ケレン・全面塗装しかありません。
上記の補修は応急的な処置となります。

03 シーリング改修工事標準施工仕様書

01. 梱包仕様

【オートンイクシード プレマエディション】



カートリッジタイプ
・320ml × 10本
・専用プライマー(100ml) × 1缶
・ノズル × 10本
・刷毛 × 1本



ペール缶タイプ
・6Lペール缶 × 1缶
・専用プライマー(100ml) × 2缶
・刷毛 × 1本

【SRシールH100 プレマエディション】



カートリッジタイプ
・320ml × 10本
・1液変成シリコーンLM
専用プライマー(100g) × 1缶
・ノズル × 10本
・刷毛 × 1本



ペール缶タイプ
・6Lペール缶 × 1缶
・1液変成シリコーンLM
専用プライマー(150g) × 1缶
・刷毛 × 1本

⚠ 注意
■指定以外の材料は使用しないでください。
■所定の【施工記録用紙】を用意し、必要事項を記入してください。
■ペール缶は色の種類によっては、在庫が無い場合があります。

02. 撤去打ち替え時施工方法

STEP 01 施工前の確認

天気の確認
◆晴天、または曇天であることを確認する。
◆気温(5℃以上)、湿度(85%以下)が適した条件。
◆風(ホコリが舞わない程度)に注意。

材料の確認
◆色・数量は指定通りか。
◆使用材料は使用期限内か。

施工記録用紙の記入
◆所定の【施工記録用紙】を用意し、必要事項を記入する。

STEP 02 既存シーリング材の撤去

撤去のポイント
◆カッターナイフなどを使用し、既存のシーリング材を撤去してください。
◆必要に応じてグラインダー・ドライバーなどの工具を使用して、既存のシーリング材を完全に撤去してください。
◆三面接着している場合には、マイナスドライバーなどで削り取ってください。

⚠ 注意
外壁材小口面に既存シーリング材や既存プライマーが残っていると、接着強度が低下し、シーリング材の剥離が発生する恐れがあります。外壁材小口を薄く削って、丁寧に撤去するようにしてください。



カッターでシーリング材の左右両面を切る



ドライバーなどでシーリング材を引っ張り出す



小口に残ったシーリング材を丁寧に除去する



STEP 03 目地の清掃

清掃のポイント

◆切粉・ゴミなどを刷毛やブラシなどで除去してください。



⚠ 注意　被着面にゴミ、油分、水分などの付着物が残っていると、シーリング材剥離の原因となります。

⊗ 禁止　オートンイクシードは、アルコール系溶剤を使用するとシーリング材未硬化の原因となります。

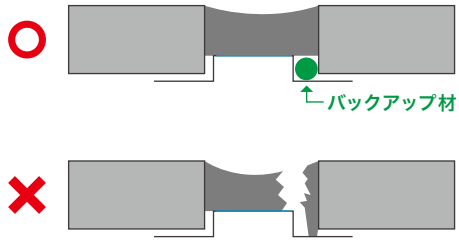
STEP 04 バックアップ材の装填

装填のポイント

◆目地幅・目地深さが適正に確保できているか確認する。
◆保証対象適正目地形状：幅10mm、深さ8mmを基準とする。幅は基準値に対し±20%とし、深さは目地幅を超えないようバックアップ材で調整する。
但し、サイディングの場合、柄の凹凸を考慮し、部分的であれば深さ5mmまでを許容とする。
◆バックアップ材により、目地形状の調整と同時に二面接着を確保します。
◆古いボンドブレーカーなどは、剥がして新たに貼り直してください。

⚠ 注意　二面接着の確保

◆シーリング材が目地の動きに追従できるよう、ワーキングジョイントの目地は二面接着にしてください。三面接着となった場合、凝集破壊や剥離の原因となります。
◆外壁材の収縮などにより、新築時に比べ目地幅が拡大している場合があります。そのような場合は右図を参照し、二面接着を確保してください。



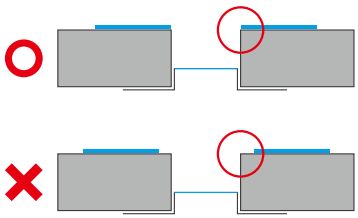
目地幅が拡大している場合は、隙間をバックアップ材などで埋め、二面接着を確保する必要があります。

そのままシーリング材を充填してしまうと三面接着となり、切れの原因になります！

STEP 05 マスキングテープ貼り

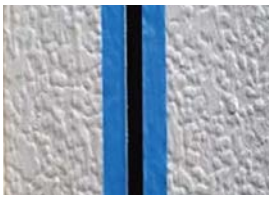
貼り付けのポイントと注意

◆テープは被着面に粘着剤が残らないものを使用します。
◆柄の凹凸に合わせ、浮きが出ないように圧着させてください。
◆目地際いっぱいに綺麗に圧着させてください。
◆被着体表面の乾燥を確認してから作業してください。



テープを目地際に寄せる。

テープが目地際から離れすぎると、シーリング材が薄層で残り、化粧目地の場合、白化の原因となります。



STEP 06 専用プライマー塗布

塗布作業のポイントと注意

◆必ず専用のプライマーを使用してください。
◆被着面に汚れや油分が無いこと、被着面が十分乾燥している状態であることを確認してからプライマーを塗布します。
◆塗りムラ・かすれ・塗り忘れが無いように、しっかりと塗布してください。
◆プライマー塗布後は30分以上（冬場は60分以上）乾燥させてください。（乾燥時間＝オープンタイム）
◆プライマー塗布後、8時間以内にシーリング材を打設できなかった場合や、シーリング材打設前に被着面が雨などで濡れてしまった場合は、被着面の乾燥を確認した後、プライマーを再塗布してください。

★プライマーの推奨塗布量目安（目地深さ8mmの場合）：100g/缶…42m　150g/缶…63m



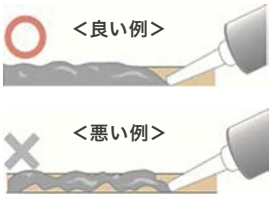
⚠ 注意　■プライマーはムラの無いよう、均一に塗布してください。
■被着面以外にプライマーが付着しないように注意してください。

⊗ 禁止　■PP、PEには被着しないため、使用できません。

STEP 07 シーリング材の充填

充填のポイントと注意

◆プライマー塗布後、オープンタイムを確保の上、8時間以内にシーリング材を充填してください。
◆ノズル先端を目地底につけて、途切れないようにシーリング材を打ち続けます。
◆気泡が入らないように適量を充填します。





STEP 08 ヘラ押さえ・仕上げ

ヘラ押さえのポイント

◆シーリング材打設後、速やか（30分以内）にヘラ仕上げを行います。
◆シーリング材のヘラ押さえは二回が基本です。一回目は金ベラなどでシーリング材を押し込み、二回目は仕上げ用のならしバッカーなどで表面を平滑に押さえると綺麗に仕上がります。
◆目地底に向けて、十分に押さえることで隙間をなくし気泡を追い出します。
◆シーリング材を接着面に均一に密着させ、接着強度を確保します。

⚠ 注意　押さえが十分でないと接着面に密着せず、接着不良の原因となります。



STEP 09 マスキングテープの除去

マスキングテープ除去のポイント

◆シーリング材の表面が硬化する前に、周辺を汚さないように丁寧にテープを除去します。

⚠ 注意　表面の硬化が進んでから除去すると、増粘したシーリング材が糸引きするため、目地際などの仕上げが損なわれますので注意してください。



STEP 10 点検と清掃

清掃のポイント

◆外壁材などの表面についたシーリング材やプライマーは、硬化する前にウエスで拭き取ってください。

⚠ 注意　外壁材などの表面にシーリング材やプライマーが残っていると外観不良の原因となります。

■不具合事例

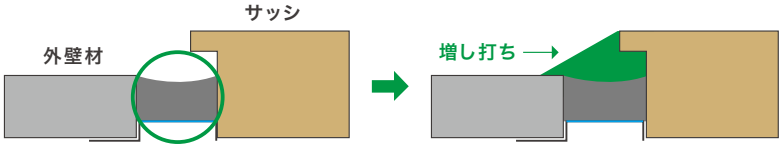


03. 増し打ちによる施工方法 ※増し打ちは保証対象外となりますので、ご注意ください。

撤去困難な部位について　既存シーリング材をキレイに撤去することが難しい次のような場合には、増し打ちで改修を行う。

■ケース01　サッシ周り

サッシ周りのシーリング材の完全撤去は極めて困難であり、無理に作業を行うと周辺部材を傷めてしまいます。
剥離や劣化部位を部分撤去の上、増し打ちしてください。



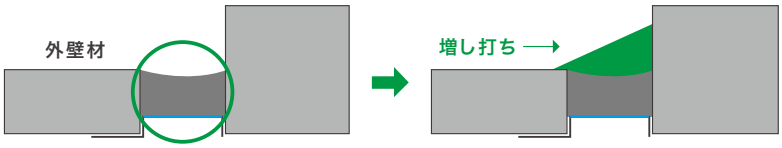
劣化部(チョーキング・クラックなど)をバフがけやブラシなどで除去してください。

シーリング材表面の幅が10mm程度になるよう増し打ちしてください。

> ⚠ 注意　異種シーリング材による増し打ちの場合は、後打ちするシーリング材の専用プライマーを塗布してから施工してください。

■ケース02　入隅部

【ケース01 サッシ周り】と同様に剥離や劣化部位を部分撤去の上、増し打ちしてください。



劣化部(チョーキング・クラックなど)をバフがけやブラシなどで除去してください。

シーリング材表面の幅が10mm程度になるよう増し打ちしてください。

> ⚠ 注意　異種シーリング材による増し打ちの場合は、後打ちするシーリング材の専用プライマーを塗布してから施工してください。

04. 注意事項

■作業に関する注意事項

◆開封後、その日のうちに使い切ってください。
◆オートンイクシードとSRシールは、同じ日、同じ現場で併用しないでください。
◆オートンイクシードは、アルコール系の溶剤・洗浄剤との接触は避けてください。

> ⚠ 注意　オートンイクシードは、アルコールと接触すると硬化不良を起こすことがあります。

■安全・取り扱い上の注意事項

◆火気のある場所では使用しないでください。
◆誤って目に入れた場合は、多量の清水で15分以上洗眼し、医師の診断を受けてください。
◆取り扱い後は、手洗いうがいを十分に行ってください。
◆本来の用途以外には使用しないでください。
◆製品の安全性に関する詳細内容が必要な場合は、安全データシート(SDS)を参照ください。

> ⚠ 注意　指定可燃物ですので、火気には十分にご注意ください。

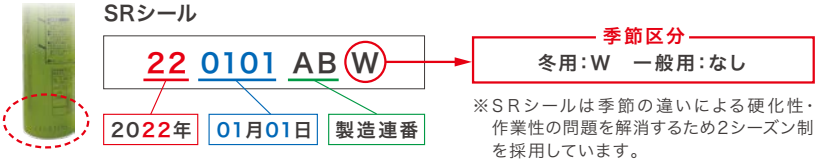
■シーリング材の保管に関する注意事項

◆製品は直射日光を避け、冷暗所に保管してください。
◆正常に保管された場合の有効期限は製造日より1年間です。製造日より1年を目安に早めに使い切るようにしてください。尚、開封後はその日のうちに使い切ってください。

> ⚠ 注意　直射日光に当てたり、極端に暑い場所へ保管しないでください。

【製造日の確認方法】





※SRシールは季節の違いによる硬化性・作業性の問題を解消するため2シーズン制を採用しています。

05. 積算参考資料

■カートリッジ製品1本当たりの積算施工メーター(m)数

目地深さ(mm) ＼ 目地幅(mm)	8	10	12	15
5	6.7	5.2		
6	5.6	4.3	3.7	
8	4.1	3.3	2.7	2.2
10		2.7	2.2	1.8
12			1.8	1.5

※ロス率を20%で計算

■ペール缶製品1本当たりの積算施工メーター(m)数

目地深さ(mm) ＼ 目地幅(mm)	8	10	12	15
5	125.0	100.0		
6	104.2	83.3	69.4	
8	78.1	62.5	52.1	41.7
10		50.0	41.7	33.3
12			34.7	27.8

※ロス率を20%で計算

■溶剤が揮発し抜けきる期間

23℃50%RH	7日～

養生期間が短すぎると、シーリングの痩せにより塗膜の割れが発生しやすくなります。

※目地形状や目地の動きにも大きく影響を受けます。



シーリング材の痩せによる塗膜の割れ

06. シーリング材への塗装の注意点

◆オートンイクシードとSRシールは、空気中の水分と反応し、表面から硬化します。
◆季節や気温、大気の状態によって表面硬化時間が大幅に変動します。
◆特に冬場は硬化に時間がかかりますので、注意が必要になります。
　⇒できるだけシーリング材の硬化時間をとってください。
◆シーリング材上の塗料は、施工直後または経時的に割れる可能性があります。

⚠ 注意

■冬場は気候により表面硬化時間が大幅に変動することが考えられます。できるだけ乾燥時間を長くとってください。
■組合せ[シーリング材+塗料]によっては、外観不良が生じたり、付着力が確保できない場合があります。シーリング材と各種塗料の相性については、別途お問い合わせください。